

竹原市教育委員会表彰

◇ 竹原市教育賞

本市内で特色ある取組により顕著な成果を上げた小学校、中学校、義務教育学校及びその教職員を、竹原市教育委員会が表彰するものです。

年度	氏名・学校名 (受賞時所属等)	功績等
令和元年度	黒川 以壽美 (荘野小学校)	平成 26 年度に竹原市立荘野小学校に教頭として赴任し、5 年間のこれまでの勤務において、常に的確な校長補佐を行うとともに、学校運営の要となり、地域と学校が一体となった教育活動を組織的に推進した。 学校の教育活動においては、荘野地域交流センター・田万里地域交流センターや地域住民との連携を進め、ゲストティーチャーへの依頼を円滑に行い、本校の「課題発見・解決学習」の充実に努めてきた。 緑化活動においても、地域の方から土づくりを学ぶことを企画提案するなど、学年及び担当教員に対しリーダーシップを発揮し、令和元年度広島県緑化功労賞の受賞につながった。
令和 3 年度	川内 直美 (大乗小学校)	竹原市立中通小学校で 5 年間校長として務め、学校経営に尽力した。 特に、平成 30 年度から令和 2 年度までの 3 年間には、広島県教育委員会より「学力フォローアップ事業」の指定を受け、児童の学力向上を図るための体制作りに務めた結果、著しい成果をあげるとともに、取組内容を竹原市はもとより、県内に普及するなど、竹原市の学校教育に大きく貢献した。 また、令和元年度第 70 回広島県小学校視聴覚教育研究大会の開催にあたっては、視聴覚機器を有効活用した算数科の授業づくりにおいて校内の研究体制を整え、I C T を活用した効果的な指導方法の工夫を図り、広く県内にその研究内容を提案することができた。
	徳森 友希男 (東野小学校)	市内で 8 年間管理職として（校長 7 年、教頭 1 年）職務を果たしてこられた。 特に竹原小学校で校長を務めた 4 年間には、市内の小学校長会の会長を務め、校長間の連絡調整を行いながら意思疎通を図るなど、竹原市教育に大きく貢献した。 また、コミュニティ・スクール事業を先進的に取り組み、実践内容を他校に紹介するなど、コミュニティ・スクール事業の普及に努めた。 さらに、今年度は東野小学校の校長を務める中で、学校経営を適切に行うとともに、市内新任校長に対して自身の経験を基に的確な助言等を行っている。

令和４年度	亀井 伸幸 (吉名学園)	竹原市内で管理職として８年間（校長７年 教頭１年）職務を果たしてこられた。 竹原市初の義務教育学校である吉名学園において、開校時から校長を務め、組織作りに尽力した結果、その取組内容を知るために多数の視察を受け入れてきた。 校長としてのこれらの実績により令和３年度には、広島県教育賞を受賞した。
	仁賀小学校 (校長 植野 洋一郎)	当校は、長年に渡り全校児童が太鼓の演奏に取り組み、学校行事等で保護者や地域に公開し、魅力のある学校について発信を続けてきた。 また、「けんみん文化祭ひろしま」における「和太鼓フェスティバル小中学校の部」において、優秀賞や特別賞を複数回受賞し、令和３年度には最優秀団体賞を受賞した。
	賀茂川中学校 (校長 北村 洋子)	当校は、令和２年度よりキャリア教育の充実を図り、課題発見や情報収集等の学習のプロセスを重視した「探究的な学び」を実現し、生徒に課題発見能力や情報収集能力、表現力等の育成に努めた。 これにより、広島空港主催のプロポーザル大会の２部門で最優秀賞を受賞させるとともに、一連の取組が評価され、第１４回キャリア教育優良学校文部科学大臣表彰を受賞した。
令和５年度	九十九 邦守 (竹原中学校)	本市内の中学校で英語科教員として１８年間勤務し、生徒との信頼関係の構築を通して、組織的な生徒指導の推進を図った。 令和４年度から校長として竹原中学校へ赴任し、県教育委員会及び竹原市教育委員会での１７年間に渡る行政経験も生かしながら、キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業の指定校の校長としてリーダーシップを発揮した。
	中野 愛 (竹原西小学校)	平成３１年から県教委「小学校外国語パワーアップ事業」のパワーアップリーダーとして、また、令和３年度から小学校英語専科として竹原中学校区の４校を兼務し、外国語の指導に熱心に取り組んでいる。 令和４年度、県教委主催の「マナビノラボ」において、授業の録画を使って県内に実践を発表した。
令和６年度	忠海学園 (校長 伊場田 真彦)	令和３年４月から学校図書館の三機能を柱に据えた研究を推進し、「授業での学校図書館の利用」「児童生徒の読書活動の充実」「学校運営協議会の活用」「ボランティアの活用や学校図書館司書との連携」「一人１台端末の利用」に関する実践を重ね、その成果を令和５年度第６５回広島県学校図書館研究大会において、県内外に広く公開し高い評価を得た。 同年、子供の読書活動優秀実践校として文部科学大臣賞を受賞した。 令和６年８月には、広島県教育委員会主催の「令和６年度広島県子供の読書活動推進に向けた「夢あふれる学校図書館見学会」」の会場校として、学校図書館見学会を開催した。

令和6年度	坂田 絵理 (竹原中学校)	令和3年4月から竹原中学校区「キャリア教育推進地域」の研究推進リーダーとなり、中学校区全体の研究を牽引した。 その前年は、キャリア教育指導者養成研修を受講し、キャリア教育指導者としての知見を高めた。 令和5年6月、令和6年6月には西部教育事務所管内進路指導主事研において実践発表を行い、令和6年8月には竹原市学びのパワーアップフォーラムにおいて「社会とつながる本物の学び」というテーマで実践発表を行うことで、県内外に向け、これまでの研究の成果を広く普及した。
令和7年度	藤原 みのり (賀茂川中学校)	研究主任としてNIE(教育に新聞を)の活動を学校全体の取組として推進し、その取組の成果を実践報告書にまとめ、広く県内に普及した。 竹原市主催の「少年の主張」竹原市話し方大会出場では、校内における話し方大会を実施するなど、優れた指導力を発揮し、指導した5年間において、4名の生徒が市の代表として県大会へ出場し好成績を修めた。 令和3年度広島県中学校教科教育推進研修(国語科)においてデジタル機器を活用した授業改善に取り組み、令和5年度には特別支援教育コーディネーターとして、「特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学びプロジェクト」指定事業を推進し、その実践と成果を県内へ普及した。
令和8年度	吉田 美和 (竹原小学校)	校長として、荘野小学校においては、学校と地域が連携・協働するキャリア教育を推進し、地域の学習材や人材を生かした学習を展開し、社会に開かれた教育課程のモデルとなった。 竹原西小学校及び竹原小学校においては、不登校、不登校傾向及び特別な支援が必要と考えられる児童生徒の支援を行う不登校SSR推進校の指定を受け、不登校の未然防止及び不登校等児童生徒の社会的自立に向けた支援の強化・充実を図るとともに、その成果等を県全体に発信した。 また、竹原市小学校長会会長を令和3年度から4年間、令和7年度には広島県連合小学校長会副会長を務め、高い見識と教育行政の豊富な経験を活かし、学校経営の向上及び人材育成を中心に竹原市のみならず広島県の小学校教育の充実と発展に向けて尽力した。
	山田 浩美 (仁賀小学校)	校長として、令和6年度から2年間、賀茂川中学校区で道徳教育推進拠点地域事業の指定を受け、道徳科における「主体的な学び」の実現を目指し、小学校と中学校が連携し、学校や地域社会等の実態や課題に応じた共通の重点項目を設定し、学校教育全体で行う道徳教育の充実を図られた。 令和8年度には、同じく賀茂川中学校区で「地域に愛着をもち、地域で活躍する人材を育成するキャリア教育推進事業」の指定を受け、地域や地元企業等との協働した体験活動の充実を中核とした教科等横断的な「キャリア教育プログラム」の開発・実践に取り組まれている。 仁賀小学校では、小規模特認校として、児童の教育的ニーズを基に

		した多様な教育機会の創出に尽力し、仁賀小学校特有の豊かな自然環境、地域との交流を活かした特色ある教育を推進するとともに、仁賀小版複式授業スタイルの確立に取り組み、学習リーダーの育成と指導方法等の改善を通して児童の学力向上に尽力した。
	伊場田 真彦 (吉名学園)	校長として、忠海学園では、令和５年度に開催された「第６５回広島県学校図書館研究大会」において、学校図書館を活用した多様な取組を広く県内外に公開し、高い評価を得た。また、令和６年４月には、これらの研究成果により、「子供の読書活動優秀実践校」として文部科学大臣賞を受賞した。 吉名学園では、令和６年度より２年間、「探究的な学びを中核とした「学びの変革」カリキュラム研究開発事業」の指定を受け、新たな価値を創造する資質・能力の育成に向け、探究的な学びを中核にしたカリキュラムを開発・実践し、その研究成果を県内に普及する。 その結果、両校において、その取組内容を知るために、県内はもちろん、県外からも視察を多く受け入れてきた。 また、児童生徒の自己指導能力の育成に向け、生徒指導にも意欲的に取組み、自発的自治的な児童生徒会活動を推進するなど、統率力の高いリーダーシップを発揮し、安心・安全な学校づくりを実現した。
	中村 裕子 (忠海学園)	これまで美術教員として、作品づくりを通して児童生徒に表現する楽しさや面白さ等、豊かな感性を育んできた。 第１４回新県美展（第７８回広島県美術展）において、児童生徒の作品を多数出品し、忠海学園から大賞１点、奨励賞２点、また昨年度まで勤務していた吉名学園から奨励賞４点を受賞するという輝かしい成果を収めた。これは、義務教育学校として１年生から９年生までの児童生徒に対し、一貫した系統的な美術指導を行い、それぞれの発達段階に応じたきめ細やかな指導を情熱をもって積み上げてきた結果である。 また、これまでの勤務校において、生徒指導主事や道徳教育推進教師として、児童生徒の人的成長を支えるとともに、豊かな心の育成に努めた。これにより、児童生徒は自己肯定感や他者への思いやりを深めることができ、自信を持って表現活動に取り組める環境を整えた。